

ヘルメチックの使用法

前処理

- ① 液状シール剤は、【基材（樹脂等）】【充填補強剤（粉体）】【溶剤】【顔料】の混合した製品です。従って、使用前は十分攪拌して、製品を均一状態にしてください。攪拌方法としては、【筆・ヘラ】等でかき混ぜたり、製品を持ちシェイクするなどの方法がありますが、キャップからのふきこぼれ等には十分注意してください。
- ② ネジ山に【切り粉】【ネジ切油】【ほこり】等が付着したまま塗布すると、シール効果が発揮されず、塗りむらができ【漏水】【錆発生】の原因になります。特に【油分】が残っていると、臭気等に影響する場合があります。ネジ山の【切り粉】【ネジ切油】【ほこり】等は、完全に除去してください。除去方法としては、拭き取ったり、セメント等をかけウエスで拭き取ったりする方法がありますが、完全に除去できません。油分洗浄剤【弊社製品：ネジクリーン】を使用し、ワイヤーブラシ等でネジ山をみがく事によって、完全に除去できます。

塗布

液状シール剤は、管端面からネジ山全体に塗布し、ネジ山の凹凸部分には塗りむらが出来ないように丁寧に塗布してください。（先端3山の過剰塗布には、十分気をつけてください）筆に適量をのせ、作業してください。のせすぎは、回りを汚しますますので気をつけてください。塗布量については、下記表【水道用シール剤標準塗布量】を御参照ください。塗布量が少量の場合は、塗りむらとなり【耐圧性（漏水）】【防錆効果】等に影響があり、逆に大量の場合は、管内にダレが生じ、通水・通圧によってフィルター等に異物として流水される場合があります。又、外にはみ出た液状シール剤は、ウエス等で拭き取ってください。又、乾燥時間にも影響があり、通常の乾燥時間では乾燥しない場合がでてきます。その場合、通水・通圧により、完全乾燥しない場合がありますので、十分気をつけてください。



- 注意 1. 65mm以上の場合は、必要に応じて先端3山以後を、指触乾燥後2度塗りしてください。
 注意 2. 寒冷地での塗布は、液状シール剤の温度を常温にしてから行ってください。（直火禁止）
 指触乾燥とは、塗布後、指で触れても指に付着しない状態の事です。（目安時間として、上水道用は3～6分程、一般用は8～10分程です）

〈参考〉『水道用シール剤標準塗布量』

呼び径	15A	20A	25A	32A	40A	50A	65A	80A	100A
ねじ部	0.5g	0.7g	1.0g	1.2g	1.5g	2.0g	2.6g	2.9g	4.5g
端面部	0.2g	0.3g	0.4g	0.5g	0.6g	0.8g	1.1g	1.3g	1.6g

締付

ネジ山に塗布した液状シール剤の溶剤の発散を待ち、手で固くなるまでねじ込み後、必ず使用呼び径に適したパイプレンチを使用して、規定トルクでねじ込み作業を行ってください。

〈参考〉『標準締付トルク値』

呼び径	15A	20A	25A	32A	40A	50A	65A	80A	100A
N・m	40	60	100	120	150	200	250	300	400
kgf・m	4.1	6.1	10.2	12.2	15.3	20.4	25.5	30.6	40.8

通水

配管施工が全て終了し、通水・通圧する際には、必ず所要の乾燥を十分に確認してから行ってください。（完全乾燥していない状態での通水・通圧は【漏水】【臭気】【毒性】等の事故の原因になる事もあります）

参考 1

【使用可能個所数量はあくまでも計算上の目安です】

数字の単位は計算上塗布できる箇所です

呼び径	15A	20A	25A	32A	40A	50A	65A	80A	100A
500g入り	714	500	357	294	238	178	135	119	81
100g入り	142	100	71	58	47	35	27	23	16

参考 2

〈参考〉日本水道協会による『液状シール剤の性能』

JWWA K-161・2ページ(表2)参照

項目		性能	
性状	容器の中での状態	かき混ぜたとき堅い塊がなくて一様になること。	
	作業性	塗り作業に支障がない。	
	加熱残分	50%以上	
物状	耐水圧性	漏れその他の異常がない。	
	耐塩水性	膨れ、さび、割れ及びはがれがない。	
浸出性	フェノール類	表 A.1-品質(浸出性)基準 給水装置の構造及び材質の基準に関する省令の別表第一“給水装置の末端以外に設置されている給水用具の浸出液、又は給水管の浸出液に係る基準”による。	表 B.1-品質(浸出性)基準 水道施設の技術的基準を定める省令の別表第二の基準による。
	有機物(TOCの量)		
	味		
	臭気		
	色度		
	濁度		
	残留塩素の減量	0.7以下	